

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	いわさき・こどもの育ち支援センター L U C I A		
○保護者評価実施期間	2026年1月26日		～ 2026年2月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数) 15名
○従業者評価実施期間	2026年1月28日		～ 2026年2月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 14名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・毎日の保護者が送迎することで、保護者と密なコミュニケーションをとることができ、保護者がいつでも相談できる体制を整えている。	・保護者の方にご協力いただき、毎日、送迎を行ってもらっている。そのことで保護者とコミュニケーションをとる機会が増え、困りごとや課題の早期発見や解決につなげられている。	・送迎利用児、外国籍の利用児の保護者に対する相談援助も手厚くできるようコミュニケーションを密にしていこう努めます。
2	・子どもたちにとってわかりやすい環境を整えている。	・職員が法人の支援方針を理解し、小集団の中でも個別支援に注目して環境を整えるように努めている。お子さんの発達段階や成長、進路等に合わせて細やかに目標や環境を変更、工夫している。 ・支援グッズ等は、保護者とも常に共有し自宅での生活にも取り入れてもらっている。	・発達支援の現場だけでなく、家庭での生活がスムーズになるよう、今後も保護者とのコミュニケーションを密にしながら継続して取り組みます。 ・具体的な相談が受けられるスタッフを増やしていけるよう努めます。
3	・フォローアップ体制を充実させている。	・卒園後のフォローアップのための保育所等訪問支援だけでなく、利用中にできた横のつながりを維持できるよう卒園児向けのイベントを開催している。 ・卒園後も家庭での生活が安定するよう、同一法人内で実施する日中一時支援サービス等の情報提供を行っている。	・現状の体制を維持しつつ、卒園後も保護者が相談しやすい環境と人をさらに充実させていきます。 ・学校、保育園等の進路先とも積極的に連絡を取り顔の見える関係を築けるよう努めます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域のほかの子どもと交流や活動する機会が少ない点	・ご利用いただくお子さんの様子から、小集団を意識してサービス提供を心がけているため、プログラムとして子ども園や幼稚園との交流の機会は設けていません。	・子ども園や幼稚園等との交流のみでなく、別の方法で交流できる機会を検討します。
2	・お子さんの様子に合わせた余裕をもった人員配置ができていない。	・配置基準は満たしているものの、児童発達支援センターとしての業務が増えており、外部へ派遣することが増えていることも一つの要因。	・職員の確保とともに、人員だけでなく環境面の工夫も検討してまいります。
3	・サービス提供時間の都合上、就労している保護者や、日本語以外を母国語とする児童の保護者への対応が不十分となっている。	・お子さんの負担も考慮し、適切なサービス提供時間と考えています。保護者にもお子さんの様子を理解してもらい機会となるよう、可能な限り時間を割いてもらうよう依頼している。 ・翻訳アプリ等を活用しているが、意図が伝わりきらないことがある。	・延長支援等を活用しつつ、保護者にはお子さんのことをしっかり知る機会になるよう、コミュニケーションを密にとり、お子さんの成長を共有していきます。